第二次霧島市総合計画（前期基本計画）総括シート

政策体系	政策No.	1	政策名	にぎわい（産業の活力があふれ、交流と賑わいが生まれるまちづくり）	施策幹事課
	施策No.	5	施策名	持続可能な地域公共交通ネットワークの構築	地域政策課

計画期間（2018年度～2022年度）における施策の方針　（総合計画書から引用）	関係課
関係団体等と連携し、JRや路線バスなど地域の実情に合わせた公共交通機関の維持を目指します。 また、地域内移動や中心市街地へのアクセス、空港・JRなど交通結節点からの乗り換え需要などの利用者ニーズを適切に把握し、誰もが分かりやすく安心して利用でき、持続可能な公共交通ネットワークを構築します。	観光PR課

施策の方針に対する達成状況（2018～2022）	後期計画における課題
■コミュニティバス（ふれあいバス・デマンド交通等）の運行や路線バスの運行支援を通じ、地域住民の移動手段を確保した。 ■2019年10月から再編後の運行を開始した市街地循環バスについて、新たに医療機関敷地内への乗り入れを行うなど、利便性の向上を図るとともに、他交通モードとの乗継時間の最適化を図ることにより、中心市街地へのアクセスが向上した。 ■誰もが安心して移動できるよう、JR隼人駅のバリアフリー化を促進するとともに、コミュニティバスの一部にバスロケーションシステムを導入した。 ■霧島周遊観光バス等の運行を通じて、観光地への利便性や回遊性の向上が図られた。	■利用者へのヒアリングや住民座談会の開催を通じ、市民ニーズを的確に捉え、一人でも多くの市民が利用してもらえるよう、地域特性を踏まえた運行方法への転換を図る必要がある。 ■バス事業は、大型二種免許取得者の減少、高齢化等を背景にして、運転手不足が深刻な問題となっており、運行回数の削減や路線廃止といった事例も散見される。そのため、地域の多様な輸送資源を最大限活用する取組を推進し、地域公共交通の維持・確保を図る必要がある。 ■交通拠点におけるバリアフリー化を促進するとともに、MaaS、AIなどの新しい技術の導入や環境に配慮した小型車両への転換など、地域公共交通の魅力向上に向けた取組を推進する必要がある。 ■霧島神宮の国宝指定に伴い県外からの観光客が増加していることから、空港やJR駅等、主要交通拠点からのアクセスを改善していく必要がある。

◎目標達成（100%以上）　△目標を未達成（100%未満）

	成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	日常生活で移動に不便を感じている市民の割合	%	更なる減少を目指します	目標値	41.0	39.5	39.0	38.5	38.0	97.0%
				実績値	－	－	－	－	39.2	△
B	肥薩線（吉松～隼人）の平均通過人員（人/日）	人	更なる増加を目指します	目標値	656	657	658	659	660	
				実績値	656	605	480	518	R5.8公表	
C	日豊本線（都城～国分）の平均通過人員（人/日）	人	更なる増加を目指します	目標値	1,438	1,448	1,458	1,468	1,480	
				実績値	1,438	1,389	728	830	R5.8公表	
D	ふれあいバスの1便当たりの利用者数	人	更なる増加を目指します	目標値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	54.0%
				実績値	3.8	3.3	3.0	2.7	2.7	△
E	市が運行主体である循環バス・観光バスの1便当たりの利用者数	人	更なる増加を目指します	目標値	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	30.0%
				実績値	5.2	5.0	3.6	3.7	3.3	△

基本事業	5年間の取組内容	5年間の取組成果	後期計画における課題
①総合的な公共交通の連携の強化	■コミュニティバスの一部にバスロケーションシステムを導入した。 ■JR隼人駅構内のバリアフリー化に対する支援を行った。	■コロナ禍において、利用者が安心して利用できる環境を整備した。 ■高齢者、障がい者、ベビーカー利用者など、誰もが安心して移動できる環境を整備した。	■バス待ち環境の整備や霧島神宮駅のバリアフリー化。 ■鹿児島空港やJR駅を拠点とした観光地間の交通ネットワークの強化。 ■JR肥薩線の利用促進の強化。
②バス交通の利便性向上と効率的運行	■コミュニティバス（ふれあいバス、デマンド交通、はやと循環ワゴン）を運行した。 ■路線バスの運行費の一部を補助した。 ■2019年10月から市街地循環バスと隼人国分循環バスの再編を実施した。 ■霧島周遊観光バスの運行ルートの実証運行（2018年度に海コースを新設）を行い、ニーズ調査を行った。 ■観光バス等の運行ルートや時刻表を掲載したパンフレットを作成し、配布した。市ホームページにも掲載し、周知を図った。	■地域住民の移動手段を確保した。 ■地域間を跨って運行する路線バスの存続が図られ、広域的な移動手段の確保が図られた。 ■新たに国分生協病院への乗り入れを行うなど利便性の向上を図るとともに、他交通モードとの乗継時間の最適化を図ることにより、中心市街地へのアクセスが向上した。 ■登山客をターゲットにした「霧島連山周遊バス」や空港周辺の温泉地への移動手段を確保する「妙見路線バス」の運行を継続するとともに、市内の周遊観光を促す「霧島周遊観光バス」の実証運行を通じて、観光地への利便性や回遊性のニーズを把握した。 ■観光バス等の運行ルートや時刻表を掲載したパンフレットを作成し、駅や主要観光施設で配布したほか、市ホームページにも掲載したことで、利用者の利便性の向上に繋がった。	■利用者のニーズに合わせた運行ルートやダイヤ等の設定。 ■市内在住外国人や児童生徒など、様々な層をターゲットとしたモビリティ・マネジメントの実施。 ■ロケーションシステムの導入など、デジタルを活用した地域公共交通の利便性向上。 ■MaaS、AIなど新しい技術の導入や環境に配慮した小型車両の導入を推進。